

平成20年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 アカガレイ

学名 *Hippoglossoides dubius*

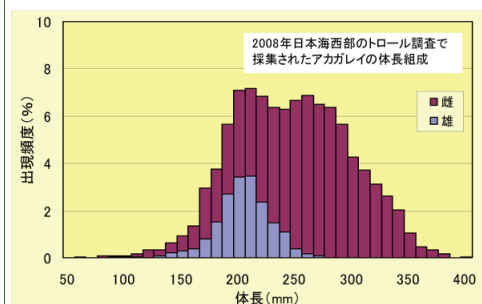
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 不明
成熟開始年齢: 詳細は不明であるが、京都府沖の50%成熟体長は雌25cm、雄17cm
産卵期・産卵場: 2~4月に水深180~200mで産卵、主な産卵場は佐渡島北方、経ヶ岬西部、隠岐諸島東側等、各地の沖合に局所的に存在
索餌期・索餌場: 周年、分布域全体(水深150~900m)
食性: クモヒトデを周年摂餌するが、ホタルイカモドキ類やオキアミなどのマイクロネクトンが増えると、それらを主に捕食
捕食者: 不明

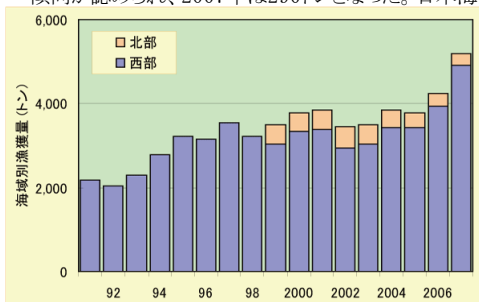


漁業の特徴

日本海のアカガレイの90%以上は沖合底びき網または小型底びき網で漁獲されている。残りは刺し網による漁獲である。底びき網漁業はアカガレイの季節的な移動に合わせて、分布域全体で行われる。

漁獲の動向

漁獲量の把握可能な1991年以降の石川県以西の漁獲量を見ると、1992年に約2,000トンと最低を記録した後、1995年までは増加し、その後は3,000トン台で安定していた。近年は卓越年級(2001年級)群の加入により増加傾向にあり、2007年は前年から約1,000トン増加し、過去15年間で最高の約4,900トンであった。富山県以北では、近年漸減傾向が認められ、2007年は290トンとなった。日本海全体では2007年は約5,200トンとなった。



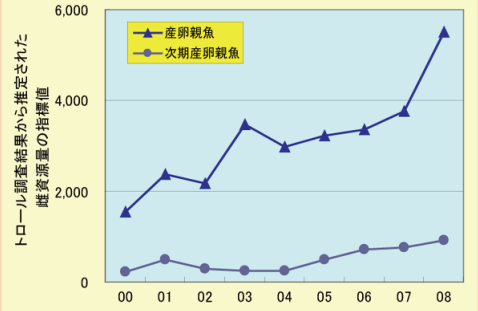
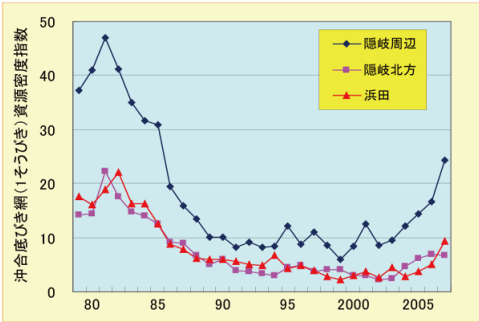
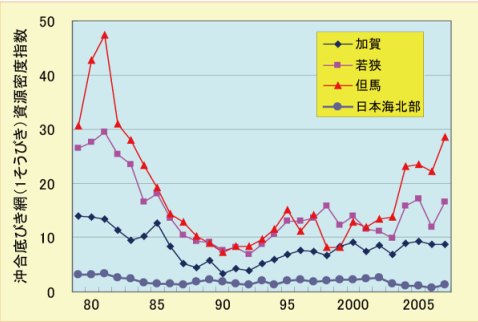
資源評価法

漁獲量、沖合底びき網の統計値(漁獲量・資源密度指数)の推移および日本海西部海域で行われている着底トロールの結果(面積密度法で計算した資源量の指標値の推移)から資源評価を行った。

資源状態

近年の日本海西部海域における沖合底びき網の海域別資源密度指数(1有漁漁区、1網あたりの漁獲量の平均値)は、全海域で良好な値を示している。とくに2001年級群が多く存在する若狭沖、但馬沖、隠岐周辺では、2001年級が漁獲され始めた2004年以降の数値の増加が顕著である。2007年は全ての海域において過去20年で最も高い数値を示した。2008年着底トロール調査結果を見ると、雌の親魚量及びこれから産卵親魚となる雌の量は前年より増加していた。これらのことから、西部海域の資源状態は良好であると判断した。北部では沖合底びき網資源密度指数が過去最低となり、漁獲量も減少していることから、資源状態の悪化が考えられた。系群全体では中位水準・増加傾向と判断された。





管理方策

日本海西部の資源状態は良好であるが、成熟体長を再検討した結果、2001年級群の多くの個体は、2008年産卵期には既に成熟したと思われる。アカガレイは成熟すると成長が著しく鈍るため、2001年級群が関係する資源量の増加は近々頭打ちとなる可能性が考えられる。しかし、沖合底びき網の努力量を漁獲圧の指標として見ると、日本海西部海域の漁獲圧は低下傾向にあるため、西部海域では過度の漁獲を避け、漁獲圧を現状以下に留めれば、資源状態が急激に悪化することは無いと考える。北部海域では、資源状態の悪化が考えられるため、漁獲圧を減らす必要がある。

	2009年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	5,100トン	1.0西C2007+0.8 北C2007	—	—
ABCtarget	4,200トン	0.8・1.0西C2007+ 0.8・0.8北C2007	—	—

資源評価のまとめ

- 卓越年級群である2001年級群の雌が産卵に加わり始めた
- 西部海域の資源状態は悪くないが、北部海域では資源状態の悪化が懸念される
- 漁獲圧は北部、西部とも高い状態ではない
- 西部海域の雌親魚量、成熟前の雌の量は少なくない

管理方策のまとめ

- 2001年級による資源量の増加が近々頭打ちになる可能性がある
- 西部海域では漁獲圧を現状以下に留める
- 北部海域では漁獲圧を下げる
- ABCは海域別に算出した

資源評価は毎年更新されます。
2008.10.27 更新